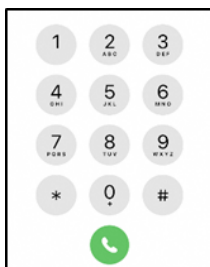


第3章 【「なぜ」「おそらく」が生まれる導入の工夫】実践例

算数の授業において、家庭生活でよく目にする携帯電話の画面から、数に対する見方を広げる取組

～ 合志市立南ヶ丘小学校（1年算数科）～

導入場面で、携帯電話のダイヤル画面を見せ、二つの数のたし算やひき算で6を作る活動から、三つの数で6を作る活動へと発展させていく導入を行っている。



家庭生活でよく目にする携帯電話のダイヤル画面を提示し、「6は作れるかな？」と発問します。すると「 $1 + 5 = 6$ 」「 $2 + 4 = 6$ 」と、たし算で求める考えが出ます。「先生、ひき算でもできるよ」という言葉から、「 $7 - 1 = 6$ 」「 $8 - 2 = 6$ 」という考えも出ます。

その後、教師が「3つの数で6を作れないよね？」と揺さぶると「できるよ!」というつぶやきがあり、「 $1 + 2 + 3 = 6$ 」という考えを見つけていきます。3つの数の計算でも求めることができ、「すごい!」という子供たちの歓声が教室に響き渡り、その後の活動にも意欲的に取り組んでいきます。

身近にある数の配列を和や差として見たり、式に表したりすることで、数に対する見方を広げ、式に表すことの面白さに気付くことができます。